

(様式1)

平成28年度「福井ふるさと元気宣言」推進に係る政策合意の実施結果 (平成29年3月末現在)

「福井ふるさと元気宣言」の4つのビジョンを着実に実現していくため、平成28年4月に知事と合意した「政策合意」の実施結果について、次のとおり報告します。

平成29年3月

総合政策部長 山田 賢一

【全部局連携】

項目	実施結果
<p>◇人口減少対策に徹底して取組み、「先進モデル県」へ 教育・医療・安全安心・環境等の分野において、幸福日本一の福井の住みやすさを県民が実感できる施策を実施します。</p> <p>○県民の総力を結集して幸福実現</p> <ul style="list-style-type: none">・県民の総力を結集するため、県内各地域・各分野において県民活動をリードする人材を育て、その活動を応援します。・多様な人材が集まり交流する機会をつくり、お互いに活動のレベルを高め合うことにより、市街地の再生・にぎわいづくり、歴史・文化・里山里海湖の「ふるさと資産」活用など、住むひと・来るひとが幸福を実感できる様々な活動を促進します。	<p>[成果等] 引き続き実施します。</p> <p>経済や地域活動団体との間で「高速交通開通アクション・プログラム」に関する意見交換会を実施（103回）し、新幹線開通等に向けた将来のまちづくりなどについて、参加者間で課題整理、政策提案などを行いました。</p> <p>また、若者を対象としたまちづくりワークショップや女性を対象とした仕事のスキルアップ研修会の開催（9回）等により、リーダー（延べ約300名）を養成するとともに、里山の体験観光プログラムの実施や古民家を活用した地域住民等との交流事業などの活動を応援しました。</p> <p>地域の豊かさを測る「豊かさ新指標」の開発に向けた研究会を4回開催しました。地域コミュニティ・自然・文化を守る活動者や、経済・社会学・自然環境などの専門家、県および全市町の担当者84名が参加し、後継者不足など自治会活動の課題や、体力向上など自然が子どもの成長にもたらす恩恵などについて議論しました。</p> <p>金融機関や若手経済団体など、民間と連携して地域や分野を超えた交流会を開催するとともに、勝山市では花月楼等の運営を行う観光まちづくり会社を新たに設置し、高浜町では薬草を活用した地域づくりを進めました。</p>

(様式1)

項目	実施結果
<p>○県政の新たな段階への進化</p> <p>・県内における「お金」の循環を拡大するとともに、本県の多様な資源を活かした持続的なローカル経済の実現を目指します。</p> <p>・「官民共動」を進化させ、それぞれの領域を超えて融合する新たな仕事の仕組みをつくり、将来にわたり本県の豊かさを表す「新・県富」の向上を図ります。</p>	<p>[成果等] 引き続き実施します。</p> <p>県内消費の拡大策、特産品を活かした中山間地域の所得向上等について議論し、地域の経済循環を拡大する施策を立案しました。引き続き、高速交通体系を活かした人やモノの交流拡大など、地域経済を発展させる政策を検討・実行します。</p> <p>[新たな経済循環拡大策]</p> <ul style="list-style-type: none">・地域商業活性化事業（電子マネー）（29当初）・ふるさと県民プロジェクト（29当初）・ふくいワイン振興事業（29当初）等 <p>福井銀行など民間や県、市町が共動してPPP/PFI手法を推進するための勉強会を3回開催し、具体的な市町の公共施設の整備・運用を検討テーマに約100名が参加するワークショップを実施しました。参加者からの意見や提案は、福井市文化会館や南越駅（仮称）道の駅の施設整備など、市町における今後の検討に活用していきます。</p> <p>※PPP/PFIとは、民間の創意工夫等を活用し、公共施設の建設や維持管理等を効率的に行う手法</p> <p>九州大学と協力し、地域の豊かさを測る「豊かさ新指標」を開発するため、専門家や地域活動者、県、市町による研究会を4回開催しました。国連の指標をベースに、県独自の視点として社会関係資本を追加し、これを定量的に把握する手法を検討しました。</p> <p>さらに、本県の社会関係資本15項目（子どもの見守り活動、自主防災活動等）について、県民500名、県外出身者150名から聞き取り調査を行い、県外出身者が金額換算で6割高く評価していることがわかりました。</p> <p>新年度は、新指標の精度を高めるため、さらに対象者を拡大しアンケート調査の段階に進めます。</p>

(様式1)

項目	実施結果
<p>◇福井国体・新幹線敦賀開業等に向け、新しい人の流れを創出 まちづくり・観光地づくりなど福井の魅力を総合的に高め、多くの人を受け入れる体制の整備を進めます。</p> <p>○高速交通開通アクション・プログラムの実行</p> <p>・各プロジェクトについて、福井国体などの節目に合わせ、着手・完成を急ぎます。また、その成果を新たな施策の立案につなげ、民間プロジェクトを含めてプログラムを追加・充実させます。</p>	<p>[成果等] 引き続き実施します。</p> <hr/> <p>アクション・プログラムに掲げたプロジェクトのうち、小浜まちの駅やものづくりキャンパスなど、今年度29件の施設整備等を完了しました。</p> <p>また、新幹線駅の周辺整備や観光・まちづくりに関する新たな拠点施設整備など、事業計画の具体化を進め、順次着手しています。</p> <p>これらの県および市町、民間における新たなプロジェクト等を追加し、アクション・プログラムを改訂しました。(29年3月)</p> <p>[主な完了事業]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハピリンのオープン(4月) ・美浜町山上の産業団地の分譲開始(4月) ・小浜市まちの駅のオープン(5月) ・サンドーム福井ものづくりキャンパスのオープン(11月) ・勝山インター線の開通(11月) ・六呂師高原スキー体験施設のオープン(12月) ・敦賀南スマートICTの供用開始(3月) <p>[平成28年度に着手した主な県事業]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福井市中心部における循環鉄道整備の可能性調査 ・越前古窯博物館の整備 ・越前禅定道の再整備 <p>[平成29年度から着手する主な県事業]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新幹線南越駅(仮称)、敦賀駅のアクセス道路整備 ・大野市、勝山市における重点道の駅整備 ・「永平寺参ろ一ど」での車の自動走行実証に向けた基盤整備 ・ふくい林業研修センター(仮称)の整備 ・県産ワインの醸造施設の整備支援 ・園芸研究拠点の整備 ・水産学術産業拠点構想に基づく施設整備
<p>◇「福井は いい!」を徹底アピール 職員一人ひとりが営業マンとなり、県外出張や来県者対応などあらゆる機会を捉え、「福井は いい!」をアピールします。</p> <p>○「ふくい人財」の展開</p> <p>・「ふくい人財」について、昨年度の60人を土台に100人まで拡大するとともに、情報発信だけでなく、戦略的な情報収集など、全部局で効果的に共有・活用していきます。</p>	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <hr/> <p>110名に拡大したふくい人財と、随時コンタクトを取ることにより、国体スポーツフェスタやダイノウェディング、由利公正の東京公文書館展示会など、福井の認知度を高める情報105件の発信につなげました。</p> <p>また、ふくい人財と政策課題について意見交換を行うなど、情報収集・提供を行った結果、世界かんがい施設遺産登録に向けた助言や、ICTを活用した農業生産性向上の国の施策情報などを入手し、政策立案・実行に活用しました。</p>

(様式1)

項目	実施結果
<p>○国際会議、全国大会の誘致</p> <p>・教育や幸福など本県の特徴を活かした政策・学術分野における、世界および全国規模の会議・大会の情報を収集・共有し、積極的な誘致活動を進めます。</p>	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>総合政策部を中心に世界および全国規模の会議等の情報収集を行い、対象候補を充実するとともに、各部局とともに実現に向けた誘致活動を行いました。この結果、内定を含めて新たに14件の県内開催が決定しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催決定した主な大会等 <ul style="list-style-type: none"> (29年度)「家族の日」フォーラム (30年度)全国児童館・児童クラブ大会 (31年度)宇宙国際シンポジウム、国際工芸サミット ・誘致活動を進める大会等 <ul style="list-style-type: none"> みどりの愛護のつどい、GNH国際会議 等
<p>○政府機関の移転の具体化</p> <p>・共同研究等を行う機関について、将来的な組織移転の実現に向け、関係機関とともに、具体的な研究内容や体制、将来の展開方法に関する行動計画を策定します。</p> <p>(政府の基本方針に盛り込まれた本県関係の政府機関)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業技術総合研究所 ・理化学研究所 (埼玉 他) ・水産総合研究センター本部 (横浜 他) ・(独) 教員研修センター (つくば 他) 	<p>[成果等] 引き続き実施します。</p> <p>政府の基本方針に基づき、産総研福井サイトの開設や水産学術産業拠点の基本構想策定、共同研究の実施など、連携事業を進めました。</p> <p>また、今後10年程度の具体的な実施内容やスケジュールについて、関係省庁・機関との協議を進めました。本格的な移転に関しては、合意には至っていませんが、理研との共同による技術相談窓口の設置など、連携事業の強化を盛り込んだ年次プランを3月に策定しました。</p> <p>(産業技術総合研究所)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産総研福井サイトを開設 (4月) ・県内企業間のマッチングや個別相談会を実施 (マッチング活動実績 (1月末時点) 185人・日) ・7件の共同研究を実施 ・29年度に、宇宙産業、ロボット研究に関する拠点施設を整備 <p>(理化学研究所)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イオンビーム育種研究会の講演会等を開催 (5月、12月) ・2件の共同研究を実施 ・29年度に、若狭湾エネ研の加速器ビームラインを改修 <p>(水産研究・教育機構 (旧・水産総合研究センター))</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水産学術産業拠点の基本構想を策定 (3月) ・29年度に、養殖用の種苗生産施設等を整備 <p>(教員研修センター)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校における外国語教育指導者養成研修を開催 (H29. 2. 22～2. 24 参加者 193人)

【総合政策部】

項目	実施結果
<p>1 美しい県土、楽しく便利なまちの形成</p> <p>◇高速交通ネットワークの完結促進【部局連携】</p> <p>○北陸新幹線の整備促進</p> <ul style="list-style-type: none"> 沿線市町や経済界と一丸となって、小浜京都ルートでの平成28年内の決定を目指します。また、北陸・中京圏間の接続向上を沿線県やJRなど関係者に働きかけます。 金沢・敦賀間の平成34年度末までの確実な開業およびさらなる前倒し開業に向け、鉄道・運輸機構、沿線市町と協力し、早期の用地取得に努めます。 九頭竜川橋りょう、福井高柳高架橋、新北陸トンネルに加え、新たに竹田川橋りょう、鯖江橋立高架橋等の工事に着手するなど、沿線全域において工事を促進します。 乗換え利便性の確保については、敦賀駅における連絡通路方式や上下方式による乗換え、福井駅における中2階での乗換えなど最も乗り換えやすい方策を講じるよう、政府・与党、鉄道・運輸機構、JRに要請し、実現を図ります。 新幹線駅および駅周辺の整備計画について、部局横断の検討チームを中心に、駅設置市、国土交通省、鉄道・運輸機構、JRとの協議を進めます。また、駅設置市が年内に鉄道・運輸機構に提案する予定の新幹線駅舎のデザインコンセプトについて、市の検討委員会に参画し、支援します。 	<p>[成果等] 引き続き実施します。</p> <p>与党検討委員会をはじめ政府・与党に繰り返し求めた結果、12月に与党プロジェクトチームが「小浜京都ルート」を正式に決定しました。</p> <p>北陸・中京圏間の接続向上について、政府・与党、JRに要請するとともに、中部圏知事会議や石川、滋賀、岐阜各県との懇談会において協議を行い、今後、沿線県で連携して対応していくことを確認しました。</p> <p>沿線全域で用地取得を進めた結果、えちぜん鉄道が仮線運行している新幹線建設予定地など来年度以降の取得が確実な用地を含めた取得率は88%となりました。</p> <p>九頭竜川橋りょう等の工事を順調に進めるとともに、7月に竹田川橋りょう、2月に鯖江橋立高架橋の工事に着手するなど、県内の工事着手率は77%となりました。</p> <p>政府・与党、鉄道・運輸機構、JRに繰り返し要請しました。与党プロジェクトチームにおいて乗換え利便性確保策の議論が行われています。</p> <p>[敦賀駅] 新幹線駅と在来線駅をつなぐ連絡通路の整備、新幹線と在来線との上下乗換え</p> <p>[福井駅] 中2階での乗換え、新幹線駅のホーム開口部・改札の増設</p> <p>検討チームにおける議論をもとに、各駅舎のレイアウト等について、駅設置市とともに鉄道・運輸機構やJRとの協議を進めました。</p> <p>新幹線駅周辺の整備について、駅周辺の賑わい創出や、駅前広場や駐車場など乗換え利便性確保に必要な施設の整備に対する補助制度を創設しました。</p> <p>新幹線駅舎のデザインコンセプトについて、福井市、敦賀市、あわら市の検討委員会に参画し、デザインコンセプトを策定し、各市から鉄道運輸機構に提出しました。</p> <p>新幹線駅舎のデザインコンセプト</p> <ul style="list-style-type: none"> 福井駅 (H29. 2. 15 提出) <ul style="list-style-type: none"> 「太古から未来へ～悠久の歴史と自然がみえる駅」 敦賀駅 (H29. 1. 17 提出) <ul style="list-style-type: none"> 「空にかぶ～自然に囲まれ、港を望む駅～」 芦原温泉駅 (H28. 12. 22 提出) <ul style="list-style-type: none"> 「あわらの大地に湧き出る贅の駅」 南越駅 (H27. 12. 14 提出) <ul style="list-style-type: none"> 「伝統・文化を未来につなぐシンボルとしての駅」

(様式1)

項目	実施結果
<ul style="list-style-type: none"> 並行在来線の経営計画策定の基となる需要予測調査を行うとともに、先行事例も参考に、並行在来線のあり方について検討を進めます。 	<p>県内区間での需要変動要因を加味した駅周辺人口増減を予測し、並行在来線の開業後の利用動向の変化を推計する需要予測調査を実施しました。また、対策協議会における検討の基礎資料を得るため、先行県での利用状況や、新駅設置の事例など利便性確保の取組み等を調査しました。</p>
<p>○小松空港の利用促進</p> <ul style="list-style-type: none"> 小松・羽田便の利便性の維持に向け、石川県や県内経済団体と協力し、県内企業への働きかけを強めるなど、県民の利用拡大を進めます。 	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>商工会議所・商工会を訪問し、小松・羽田便のビジネス利用促進キャンペーン（県内参加企業 180 社）への参加を働きかけたほか、県立図書館などでのPR展示（5回）の実施や日本旅行業協会への訪問などにより航空利用を働きかけた結果、小松・羽田便の利用者は109万人（推計）と前年度並みとなりました。</p>
<p>◇高速交通開業アクションプログラムの推進【部局連携】</p> <p>○「県都デザイン」プロジェクトを加速</p> <ul style="list-style-type: none"> 福井城址を県都の新たなシンボルとするため、本丸エリアを中心とした福井城址公園の整備について、専門家による検討を開始します。 山里口御門について、伝統技法による土壁の施工など技術の伝承を行いながら、29年の建物完成を目指し、復元整備を推進します。福井城址の整備に向けた県民の機運を醸成するため、工事現場見学会（5月、10月）や瓦・壁板記念会（8月、11月）を開催します。 「福の井」について、花見や野点等のイベントで活用できるよう、来年3月の花見時期に向け、井戸上屋を設置するとともに、井戸を往時の形に復元します。 中央公園について、7月に完了する第1期工事に引き続き、福井城西二の丸、西三の丸の堀跡の遺構をデザインに取り入れた緑豊かな空間整備が福井国体までに完成するよう、福井市を支援します。 	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>福井城址公園の整備について、本丸エリアの櫓等など整備の進め方を検証するとともに、専門家の意見聴取を行いました。</p> <p>山里口御門については、6月に石垣修復工事を終え、11月には上棟式を開催するなど、29年中の建物完成に向け工事を進めています。また、城址整備に向けた機運を高めるため、8月と11月に瓦・壁板記念会、5月と12月に工事現場説明会を開催しました。</p> <p>（御門建築の進捗率（事業費ベース） 75%）</p> <p>「福の井」の整備については、9月に再整備工事に着手し、3月に井戸の復元や上屋の整備を完了しました。4月には、「福の井」の水を使用したイベントを開催します。</p> <p>中央公園については、北側エリア（1期工事）の供用を7月に開始し、9月に30年夏ごろの供用開始を目指し、2期工事に着手しました。</p>

(様式1)

項目	実施結果
<p>○新幹線沿線のまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none">・駅前広場やアクセス道路等、新幹線駅周辺の整備が速やかに進むよう支援を行います。	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>新幹線駅周辺の整備について、これまで福井駅周辺土地区画整理支援事業により支援していた福井駅に加えて、芦原温泉駅、南越駅（仮称）、敦賀駅の新幹線駅周辺整備に係る支援制度を創設しました。</p> <p>また、芦原温泉駅および敦賀駅の駅周辺整備に係る委員会に参画し、助言等を行いました。</p>
<p>○福井駅西口エリアの整備</p> <ul style="list-style-type: none">・民間の再開発プロジェクトについて、福井市とともに調整や協議に加わり、具体化に向けた応援を行います。・歩行者と鉄道が共存できる空間や市内循環鉄道の整備など、まちづくりと公共交通の新たな展開について検討を行います。	<p>[成果等] 引き続き実施します。</p> <p>福井駅西口3ブロック合同の再開発検討会に福井市とともに参加し、再開発エリア内の道路の再配置など、公共との協議が必要となる施設計画に対して助言し、再開発計画案の具体化を支援しています。</p> <p>市内循環鉄道については、整備の可能性を検討するための道路の現況や法令上の課題、想定事業費、利用見込みなどを調査しました。</p>
<p>○二次交通の充実・強化</p> <ul style="list-style-type: none">・エリア別地域交通会議や県交通会議などを通じ、市町や交通事業者と新幹線4駅の交通拠点化、新しい技術や手法の導入による交通サービスの向上について協議を進めます。・福井鉄道・えちぜん鉄道の相互乗り入れについて、鉄道事業者が目指す利用者目標の達成に向け、安定的な運行や利用促進のための取組みを支援します。（平成27年度 -） <p style="text-align: center;">相互乗り入れによる乗客増 50,000人</p> <ul style="list-style-type: none">・宿泊施設や鉄道駅を拠点としたカーシェアリングや交通系ICカードの導入、自動走行車の実証など交通アクセスの新たな強化策の実現に向け、関係者と協議を進めます。	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>市町の地域公共交通会議やエリア別の交通会議において、広域路線バスのJR駅への延伸や、観光地を結ぶ特急バス路線の新設を進めました。また、クルマの自動走行の実証実験の誘致を永平寺町とともに進めています。</p> <p>両事業者が共同で、車両の不具合や軌道運行上の支障の除去等について、対応を検討するための会議の場を持ちました。さらに定時性の確保のため、軌道線と車道の区画線の改良を行いました。</p> <p style="text-align: center;">相互乗り入れによる乗客増 83,000人</p> <p>5月に、福井市内のホテルでカーシェアリングの運用を開始したほか、芦原温泉などでも検討を進めました。</p> <p>JR西日本により、県内北陸本線へのICOCA導入（30年夏）が決定されました。また、県内地域交通への導入拡大に向けて交通事業者等と協議を始めました。</p>

(様式1)

項目	実施結果
<p>○自転車の利用促進</p> <p>・福井しあわせ元気国体の開催に向けて、自転車の安全で快適な利用空間を確保し、自転車利用を促進するため、市町や関係機関との協議を行います。</p>	<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>永平寺町の九頭竜川堤防から恐竜博物館を結ぶ県道勝山丸岡線などに自転車マークなどの路面表示を行って、既存の永平寺福井自転車道とつなげました。(21km)</p> <p>また、市町の自転車関係課とのワークショップやサイクリングイベントの開催、オランダから贈呈された自転車の試乗会の開催など、自転車利用の機運醸成を図りました。</p>
<p>2 原子力・エネルギーの確かな将来展望と地域振興</p> <p>◇「安全最優先」の原子力行政【部局連携】</p> <p>○原子力防災対策の充実・強化</p> <p>・世界最高水準となる「原子力緊急事態支援センター」の本体施設や資機材の整備、要員訓練を行い、12月に本格運用を開始します。また、県民の安全を確保するため、強力な輸送手段を有する自衛隊の嶺南配備を国に求めます。</p>	<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>12月に本体施設や資機材の整備を完了し、「美浜原子力緊急事態支援センター」として本格運用を開始しました。遠隔操作ロボットや無線ヘリなど最新鋭の資機材を用いた訓練を62回行っており、今年度は全国の電力事業者から218名の研修を受け入れました。</p> <p>また、防衛大臣等に対し、10月に嶺南6市町長と合同要請を行うとともに、1月26日にも要請活動を行い、嶺南地域への自衛隊配備を強く求めました。</p>
<p>○原発立地地域の振興策</p> <p>・原子力発電所の廃炉に伴う交付金の減少に対し、平成28年度に創設された国の補助金等を活用して新たな産業や雇用を創出する事業を実施し、前年度を上回る電源三法交付金・補助金等を確保します。</p>	<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>今年度に創設された国の補助金(エネルギー構造転換理解促進事業)について、幅広く対象とすることを強く求めたところ、水素エネルギーや企業への再エネ技術開発支援などが対象に追加されました。</p> <p>再稼働関係の交付金と合わせ、市町も含め県全体で、廃炉に伴う減少額21億円を上回る25億円の電源三法交付金・補助金等を確保することができました。</p>

(様式1)

項目	実施結果
<p>◇嶺南をエネルギー産業の拠点へ【部局連携】</p> <p>○原子力人材育成の「国際センター」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ I A E A との覚書に基づく協力をさらに進め、「原子力マネジメントスクール」等、世界の原子力の安全を支える人材育成研修を新たに実施するとともに、原子力科学・応用分野での研修や対象国の拡大を行い、海外研修生等の受入数を増やします。 (平成27年度 184人) <p style="text-align: center;">海外研修生等の受入数 190人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本原子力研究開発機構から譲渡を受けた「アクアトム」を原子力人材育成や産学官連携の拠点として利活用するため、改修工事等を着実に進め、年度内に供用開始します。 ・ 産学官による「災害対応ロボット技術開発研究会」において、耐放射線性や耐久性向上等の技術課題に対応するため、県内企業が有する具体的な技術の活用について検討を進めるなど、原子力災害等に対応するドローンの研究開発を行います。 ・ 原子力人材の育成に必要な教育・研究施設の確保のため、研究用原子炉の整備について、国に具体的な方針を定めるよう働きかけます。 	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <hr/> <p>海外研修生等の受入れについては、I A E A 等との連携により、新たな人材育成研修として、7月に「原子力マネジメントスクール」、11月に「原子力発電基盤訓練コース」を実施し、27か国から目標を上回る191人の受入れを行いました。</p> <p style="text-align: center;">海外研修生等の受入数 191人</p> <p>原子力関連技術や研究成果を活用し、嶺南地域における新産業の創出や育成を行う新拠点として、「アクアトム」の整備を行い、3月に供用を開始しました。</p> <p>県内の企業や大学、電力事業者等をメンバーとした「災害対応ロボット技術開発研究会」を10月と3月に開催し、県内外の27団体29名が参加して、防災用ドローンの開発事例の研究を行うとともに、本県独自の技術を活用したドローンの機体開発に向けて、県内の大学や企業が参加するワーキンググループを設置しました。</p> <p>新たな研究用原子炉など教育・研究設備の整備の推進を国に要請し、国においては、1月に「原子力研究開発基盤作業部会」が立ち上げられ、研究用原子炉を含む、必要な原子力研究開発機能や施設等についての検討が開始されました。</p>
<p>○LNG発電所の誘致と新産業の拠点づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国、事業者と協力して、LNGに関連する新産業創出の予測調査を行い、受入基地、火力発電所、パイプラインの事業化を促進します。 	<p>[成果等] 引き続き実施します。</p> <hr/> <p>LNG受入基地、火力発電所、パイプラインの整備に向けて、国や事業者が参画するワーキンググループを設置して具体的な検討を進めるとともに、県において、LNGインフラ整備による経済波及効果や、関連産業の事業内容等について検討する産業振興調査を実施しました。</p>

(様式1)

項 目	実 施 結 果
<p>3 幸福実感、誇りを生み出す「ふるさと政策」</p> <p>◇「ふるさと福井」に誇りと自信【部局連携】</p> <p>○「希望学」の実践</p> <p>・県民が共通して応援できる夢を県内の若者から広く募集・選考し、夢の実現に向けた県民応援団を結成・サポートします。</p> <p style="text-align: right;">応援団結成 3件</p> <p>・スポーツ・文化の分野において、世界や全国で活躍する本県出身選手を応援するサポーターを募集し交流を進めます。</p> <p style="text-align: right;">サポーター登録数 100人</p>	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <hr/> <p>世界や全国を舞台に活躍する県内の第一人者4名(※)が応援団となり、14中学校(生徒数合計1,555人)において、夢実現のための心構えを経験談を交えて紹介し、目標へのチャレンジの意識を高めました。今後、野球や音楽など新しい分野に広げ、引き続き若者の夢の実現を応援していきます。</p> <p>※オリンピック：徳南堅太選手、見延和靖選手 競技かるた：川崎文義名人 小説：谷崎由依氏</p> <p style="text-align: right;">応援団結成 3件</p> <p>リオオリンピック・パラリンピック出場の県勢選手応援HPの開設等により、県民サポーターを募集し、代表選手壮行会(※5競技)やかると名人位決定戦、福井商業JETS演技披露会において、メッセージ・エールを送るなど、選手の夢を県民全体の夢として応援しました。</p> <p>※フェンシング、バドミントン、自転車、セーリング、視覚障害者マラソン</p> <p style="text-align: right;">サポーター登録数 816人</p>
<p>○「ふるさと知事ネットワーク」による地方連携</p> <p>・8月に本県において知事会合を開催するとともに、ふるさと納税やU・Iターン促進等に向けた共同活動、選挙制度改革など地方創生を目指した国への提言を行うなど、13県による行動を全国に発信します。 (平成27年度 2件)</p> <p style="text-align: right;">共同活動や提言の実施数 2件増 累計4件</p>	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <hr/> <p>選挙制度改革に関する緊急提言を8県合同で衆議院議長に行い、人口と国土に視点を置き、地域格差の解消につなげる選挙制度の在り方を訴えました。</p> <p>9県の知事・副知事による知事会合を勝山市において開催し、地方の若者や女性、高齢者の活躍促進などについて協議しました。</p> <p>その結果を受け、地方創生担当大臣等に要請活動を行い、企業の地方移転促進のための税額控除等の継続(平成29年度税制改正大綱)や地方大学の振興等に関する有識者会議の設置(平成29年2月)につなげました。</p> <p style="text-align: right;">共同活動や提言の実施数 2件増 累計4件</p>

(様式1)

項目	実施結果
<p>◇時代の先端を行く情報活用 ○ICTを身近に</p> <ul style="list-style-type: none"> 「福井県オープンデータライブラリ」のオープンデータ数を増やし、全国トップクラスを維持します。 <p style="text-align: center;">オープンデータ数 25データ増 累計161データ</p> <ul style="list-style-type: none"> 県内のIT産業団体等と連携し、オープンデータを活用したアプリケーション等の開発を促すことにより、新たなビジネスを生み出す環境を作ります。 <p style="text-align: center;">アプリ数 30アプリ増 累計90アプリ</p>	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <hr/> <p>アプリ開発者やIT産業団体、企業からの要望や他自治体の事例等を参考に、庁内各課へ働きかけ、データを公開しました。</p> <p style="text-align: center;">オープンデータ数 28データ増 累計164データ</p> <p>アプリコンテストの実施、県内IT産業団体との連携によるアプリ作成、他の自治体が開催したアプリ開発イベントへの参加により、アプリケーションの開発を促進しました。</p> <p style="text-align: center;">アプリ数 30アプリ増 累計90アプリ</p>
<p>4 行財政構造改革 ◇質の高い政策をめざす県政【部局連携】 ○「政策推進マネジメントシステム」の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 毎朝の企画参事ミーティングを中心に、新聞情報、関連データ等の情報収集・分析を徹底するとともに、政策アドバイザー等外部有識者との意見交換、部局間の相談・連携を密にし、全部局において新たな政策立案を促進します。(平成27年度 41件) <p style="text-align: center;">新たな政策立案件数 45件増 累計86件</p> <ul style="list-style-type: none"> 職員一人ひとりが、庁外の人的ネットワークを広げながら、新聞・雑誌・有識者等のあらゆる情報を取り入れ、県民が夢を持てる政策をつくる姿勢を強化し、仕事をレベルアップします。 	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <hr/> <p>企画参事ミーティングにおいて新政策提案(約200件)を行ったほか、政策アドバイザーとの意見交換や各分野の第一人者との政策会議(58回)等を通じ、ふくいワークキャンプ推進事業やふくいワイン振興事業など48件の新たな事業等を立案しました。</p> <p style="text-align: center;">新たな政策立案件数 48件増 累計89件</p> <p>職員が外部有識者と意見交換等(27回)を行い、若手経済人から紹介された在仏作家と、少子化対策について情報交換を行ったほか、雑誌記事を機に学生向け企業紹介カフェ責任者から助言を得て、学生と地元経営者が語る場をFスクエアにおいて定期的に開催するなど、政策の企画に活かしました。また、省庁・民間等派遣職員が研究会や民間主催の勉強会等で得た国内外の情報を全庁的に共有し、政策立案に活用しました。</p>

(様式1)

項目	実施結果
<p>○情報システムの最適化</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報システムの運用経費の適正化に努めます。 (平成27年度 [対26年度] 2.5%削減) <p>運用経費 5.0%以上削減 [対26年度]</p> <ul style="list-style-type: none"> 標的型メール攻撃対応訓練の結果等を踏まえたセキュリティ研修等により職員の意識向上を図るとともに、新たにデータの自動暗号化等の情報漏えい防止のための技術的対策を導入し、情報セキュリティ対策の強化を行います。 市町と共働し、インターネット接続口を一つにして集中監視する仕組みづくりを行い、インターネットを経由したサイバー攻撃等への対策や初動対応等の体制づくりに取り組みます。 	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>庁内情報システムに係る経費や調達仕様書の精査を行い、運用経費の適正化に努めました。</p> <p>運用経費 5.0%削減 [対26年度]</p> <p>8月に実施した情報セキュリティ研修(19回、1,385名)などにより、標的型メール攻撃対応訓練における不審メール受信報告率が22.5%(5月実施結果)から36.9%(1月実施結果)に伸び、職員の意識向上が図られました。 新たなセキュリティ対策として、電子ファイル自動暗号化、電子メール無害化、電子メール誤送信防止システムを12月までに導入しました。</p> <p>県内全市町と共働して、インターネット接続口の集約化や24時間365日の集中監視を行う仕組みづくりを実施しました。(平成29年7月から稼働)</p>
<p>○統計調査の適正かつ正確な実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 統計調査を適正かつ正確に実施するとともに、経済センサス-活動調査において、今回全面的に導入されるオンラインによる回答を推進します。 (平成27年度 -) <p>回答率 10%以上</p> <ul style="list-style-type: none"> 統計の一層の活用を進めるため、企画参事ミーティングの場を活用するなどして、統計データの政策的収集・分析等を行います。 	<p>[成果等] 目標を上回って達成しました。</p> <p>調査員、指導員への説明・指導を徹底するとともに、調査票審査で市町への巡回指導を行い、経済センサス-活動調査を適正かつ正確に実施しました。 また、新聞、テレビ、ラジオでの周知のほか、直接、経済団体や事業所への周知に努めた結果、オンライン回答率が目標を大きく上回りました。</p> <p>回答率 20.9%</p> <p>平成27年国勢調査に関し、他部局や市町の施策に必要な統計データの要望把握を行い、施策に反映できるよう分析を行いました。 労働政策課と協議し実施した企業や学生、一般求職者への業種や職種毎の充足状況調査において、統計的観点からの結果分析を行い、雇用のミスマッチの実態やニーズの詳細な把握につなげました。</p>

(様式1)

平成28年度「福井ふるさと元気宣言」推進に係る政策合意の実施結果
(平成29年3月末現在)

「福井ふるさと元気宣言」の4つのビジョンを着実に実現していくため、平成28年4月に知事と合意した「政策合意」の実施結果について、次のとおり報告します。

平成29年3月

ふるさと県民局長 竹内 直人

項目	実施結果
1 人口減少に歯止めをかける徹底戦略 ○人口減少対策の推進 ・「ふくい創生・人口減少対策戦略」に新たな政策を追加するとともに、重要業績評価指標（KPI）による進捗管理を徹底し、ふくい創生・人口減少対策を強力に推進します。 (平成27年度 76%) KPI達成率 80%	[成果等] 目標を達成しました。 「ふくい創生・人口減少対策戦略」に新たな政策と15のKPIを追加し、U・Iターン促進や結婚支援など、ふくい創生・人口減少対策を推進しました。 KPI達成率 80% (見込)
◇ 幸福日本ー福井へ 移住・定住戦略【部局連携】 ○U・Iターンの徹底サポート ・全国への求人情報発信や都市圏での出張面接会などによりマッチングを強化するとともに、建設や介護など専門的技術者の資格取得等の支援や、引っ越し費用、住宅ローンの割引など民間の協力による移住者支援を促進し、新ふくい人を増やします。 新ふくい人の数 500人 ・語学が得意な女性など、Uターン者の雇用拡大に向けた対策を検討、実行するため、県とプラス1雇用宣言企業、商工団体で構成する推進協議会を設け、夏ごろから雇用をスタートします。(平成27年度 ー) プラス1雇用宣言企業数 50社	[成果等] 目標を一部達成しませんでした。 10月および1月に東京と大阪において、移住・就職フェア等を開催し、300名が参加しました。 また、民間の転職サイトに福井県で働くこと暮らすことの魅力とともに県内企業の求人情報を掲載しました。 12月には、民間の協力により、引越費用やレンタカー利用の割引など移住者に対する支援を行う「ふくい移住サポーター企業」制度を創設し、21社が登録しました。 新ふくい人の数 623人 県外に進学した若者のU・Iターンを促進するため、県内企業の雇用の受け皿を増やす「プラス1雇用」宣言企業を募集し、58社が登録しました。8月には、宣言企業、商工団体等が参加して、「プラス1雇用」推進会議を開催し、雇用を拡大するための各社の取組みについて意見交換を行いました。 プラス1雇用宣言企業数 58社

(様式1)

項目	実施結果
<p>・本県出身の県外在住者や本県赴任経験者、観光リピーター等に対し、愛着県民となるよう働きかけ、登録者数1万人を目指します。併せて、ふるさと大使・ブランド大使制度を見直します。 (平成27年度 ー)</p> <p style="text-align: right;">登録者数 10,000人</p> <p>・県内に就職する県外大学生等に対して、日本学生支援機構から貸与された奨学金返還を応援し、県外大学生等のU・Iターン就職を促進します。 (平成27年度 ー)</p> <p style="text-align: right;">支援対象者認定数 30人</p> <p>・Uターン就職した若手社員を就活サポーターとして登録し、学生交流会や就職支援協定校などにおいて県内企業で働く魅力を伝え、Uターン就職を働きかけます。</p> <p style="text-align: right;">就活サポーターの数 100人</p>	<p>ふるさと県民大会や同郷会の総会などにおける登録の働きかけや県内の高校卒業生へのふるさと県民「会員証」の配布等により登録を呼びかけました。 ふるさと大使・ブランド大使制度を見直し、「ふるさと県民」に移行して、SNS等により福井の情報を提供しました。</p> <p style="text-align: right;">登録者数 10,600人</p> <p>日本学生支援機構から奨学金の貸与を受けている県外大学生等の募集を行い、25人を返還支援対象者として認定しました。</p> <p style="text-align: right;">支援対象者認定数 25人</p> <p>9月に関西大学、関西学院大学とUターン就職支援協定を締結し、協定校を3校から5校に拡大しました。 協定校などにおいて、Uターン就職した社会人と学生の交流会を12回開催し、県外に進学した学生に福井県で働く魅力を直接伝えました。</p> <p style="text-align: right;">就活サポーターの数 115人</p>
<p>◇日本一の「結婚・子育て応援社会」 ○「めいわくありがた縁結び」の徹底展開</p> <p>・新たに結婚応援のキャッチコピーCMを制作し、「結婚ポジティブキャンペーン」を拡充します。また、カップルを対象としたイベントの開催など、恋人や夫婦が一緒に出かける「ハッピー・デート」プロジェクトを新たに展開することにより、結婚を前向きに考える機運を醸成します。</p> <p>・「ふくい結婚応援企業」をさらに増やし、「職場の縁結びさん」の情報交換会を拡充することにより、独身者の企業間交流会など職場の縁結びをさらに進めます。(平成27年度100社169人)</p> <p style="text-align: right;">「職場の縁結びさん」登録数 150社250人</p>	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>新たな結婚応援CMを制作し、11月から民放2局で1か月間、映画館5館で3か月間放映し、結婚を前向きに考える機運を醸成しました。 また、カップルに対して特典を設ける「ハッピー・デート協賛店」を202店舗登録したほか、恐竜博物館での「ダイノウェディング」など、カップルが楽しめるイベントを開催しました。</p> <p>ふくい結婚応援企業を204社に増やすとともに、職場の縁結びさん研修会の開催などを通じて、独身従業員の企業間交流会を大幅に増やしました。 (平成27年度25回447人、カップル19組、成婚0組 →平成28年度48回735人、カップル48組、成婚8組)</p> <p style="text-align: right;">「職場の縁結びさん」登録数 204社319人</p>

(様式1)

項目	実施結果
<p>・お寺の住職や退職教員を加えるなど、「地域の縁結びさん」をさらに増やします。また、縁結びさんの活動を支援する拠点を設け、あわせて出張相談会を各地で開催することにより、結婚相談やお見合いなどの縁結び活動を拡充します。</p> <p>(見合い回数 平成27年度 2,025回) (成婚数 平成27年度 74組)</p> <p style="text-align: right;">見合い回数 2,100回 成婚数 100組</p>	<p>新規募集のための縁結び講習会の開催などにより、地域の縁結びさんを大幅に増やしました(148人→207人)。新たに越前縁結び僧侶の会が結成されるなど、「お寺の縁結びさん」が40人に増えました。</p> <p>また、県結婚相談所において、7月から日曜相談を始めるとともに、新たに地域の縁結びさんによる出張相談会を行うなど、活動を強化し、成婚数は101組となりました。</p> <p>さらに、縁結びさんの活動拠点として「ふくい縁結び交流室」を3月に開設し、あわせて開設記念行事「結婚応援ふくい大会」を開催するなど、縁結び活動の支援を拡充しました。</p> <p style="text-align: right;">見合い回数 2,156回 成婚数 101組</p>
<p>◇ 若者の熱意と行動力を結集 ○ 「若者チャレンジ」第2ステージ</p> <p>・地域づくり活動などに新たにチャレンジする若者をサポートする若者応援隊を結成し、地域活性化に取り組む若者グループを増やします。</p> <p style="text-align: center;">若者グループの数 12グループ増 累計80グループ</p> <p>・県内の大学生が大学の枠を越えて集い交流する合同大学祭の開催を支援し、若者の県内定着を促進します。</p> <p>・獲得競争が激化している地域おこし協力隊の募集について、関心を持つ若者を対象に実際の仕事を体験できるツアーを実施し、確保・増員します。</p> <p style="text-align: center;">地域おこし協力隊員数 45人</p>	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>「ふくい若者チャレンジクラブ」のメンバーが指導者となって地域の課題解決に取り組むまちづくりワークショップや「若者チャレンジプランコンテスト」の実施などにより、活動する若者のグループ化を図りました。</p> <p style="text-align: center;">地域活性化に取り組む若者グループの数 12グループ増 累計80グループ</p> <p>県内大学生が、大学横断型の学生サークル「ふくい学生祭実行委員会」を結成し、6月に初の合同大学祭を開催するとともに、ふくいジョブカフェと協力し学生と県内企業の若手職員との交流会の企画・運営を行い、県内定着を進めました。</p> <p>大都市圏で県内市町と共同説明会を開催するとともに、協力隊を募集中の県内市町を巡る協力隊体験ツアーを実施するなど、市町の募集活動を後押ししました。</p> <p style="text-align: right;">地域おこし協力隊員数 54人</p>

(様式1)

項目	実施結果
<p>◇女性の元気が福井の元気 ○女性の活躍応援</p> <p>・男女共同参画および女性活躍をさらに推進するため、「第3次福井県男女共同参画計画（H29～H33）」を策定します。</p> <p>・企業経営者対象の女性活躍セミナーを開催し、女性の採用・育成・登用を積極的に行う「女性活躍推進企業」を増やします。加えて、推進企業における社内プロジェクトチームの活動支援や優れた成果を上げた「ふくいグッドジョブ女性」表彰などにより、県内企業の女性活躍をさらに進めます。 （平成27年度 82社）</p> <p>「ふくい女性活躍推進企業」登録数 120社</p> <p>・女性リーダーに必要な知識を学ぶ「未来きらりプログラム」において、新たに技術系の女性を対象とした「製造業リーダーコース」を開設し、県内企業の女性リーダー育成を促進します。</p> <p>・起業家や専門職など個人で活躍する女性の交流会を引き続き開催し、「ふくい元気女子」のスキルアップや人脈づくりを支援するとともに、女性グループによる新商品開発や展示会への出展等を支援し、新たなビジネス展開を応援します。（交流会メンバー数 平成27年度 132人）</p> <p>交流会メンバー数 160人</p> <p>・「ふくい女性活躍支援センター」において、新たに求人企業の個別面談会を開催するなど就職支援を強化し、女性の就職者を増やします。 （就職者数 平成27年度 88人）</p> <p>女性の就職者数 100人</p>	<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>福井県男女共同参画審議会を開催し、「第3次福井県男女共同参画計画（H29～H33）」を策定しました。</p> <p>「ふくい女性活躍推進企業」制度について、プラス1女性雇用企業支援補助金や入札参加資格審査での加点評価の対象とするなど内容を拡充するとともに、企業への働きかけを強化し、登録企業を大幅に増やしました（H27:82社→H28:157社）。</p> <p>さらに、登録企業を対象に、2月に「ふくいグッドジョブ女性」表彰を行い、10社の成果を上げた活躍女性を表彰したほか、県合同企業説明会で企業PRを行うなど支援を強化しました。</p> <p>「ふくい女性活躍推進企業」登録数 157社</p> <p>4月に未来きらりプログラムに「製造業リーダーコース」を新設し、新たに県内企業10社の女性技術者が研修に参加しました（受講者数 H27:計12回、延べ約280人→H28:計18回、延べ約430人）。製造業コースについては、ものづくりの全体像を学ぶとともに、県内外の先進企業での視察研修やロールモデルとなる女性管理職との意見交換を行いました。</p> <p>起業家や専門職など個人で頑張る女性のスキルアップと人脈づくりを応援する「ふくい元気女子交流会」を開催し、138人（計3回、うち新規75人）が参加しました。</p> <p>また、10の女性グループの新商品やサービス開発を支援し、新たなビジネス展開を応援しました。</p> <p>交流会メンバー数 207人</p> <p>女性活躍支援センターにおいて、再就職支援セミナーを開催するとともに（計5回、参加者174人）、新たに、企業の人事担当者や先輩女性社員が直接自社をPRする合同企業面接会を開催するなど（参加企業13社、参加者48人）、就職支援を強化した結果、就職者が増加しました。</p> <p>女性の就職者数 101人</p>

(様式1)

項目	実施結果
<p>2 幸福実感、誇りを生み出す「ふるさと政策」</p> <p>◇「ふるさと福井」に誇りと自信【部局連携】</p> <p>○希望創造・幸福実感プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> 福井県の幸福を県内外の人の目に見えるように、キャッチコピー制作や幸福スポットを巡るコースを設定します。(平成27年度 ー) <p>幸福スポットを巡るコースの設定 4コース</p> <ul style="list-style-type: none"> ブータンから伝統工芸の研修生を受け入れ、ブータンとの交流を促進します。 	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>著名なコピーライターの提案により、「幸福度日本一ふくい」を表すコピー・ロゴを制作しました。全国紙など各種メディアで取り上げられたほか、市町等による活用、大手企業の社内報掲載など、様々な機会を捉えて、「幸福度日本一ふくい」をPRしました。</p> <p>また、5月には県民参加によるワークショップを開催し、主要観光地と結ぶ「福井しあわせ巡遊コース」を4コース設定しました。</p> <p>幸福スポットを巡るコース（福井しあわせ巡遊コース）設定 4コース</p> <p>8月31日から9月7日に、ブータン王国の大学生ら13名が来県し、幸福度日本一につながる教育と産業の視察研修や、県内大学生との交流を行いました。</p> <p>9月13日から12月22日に、ブータン王国の漆器職人2名を受け入れ、越前漆器の職人による技術研修を行いました。</p>
<p>○福井発の政策提案を実現</p> <ul style="list-style-type: none"> 企業の社会貢献活動を引き出し、本県の活性化に役立つ対象事業を設定して企業に働きかけ、企業版ふるさと納税を獲得します。 用途を明らかにしたプロジェクト応援型ふるさと納税の対象事業を倍増し、寄付の拡大を図ります。(平成27年度 5億5,700万円 うちプロジェクト応援型3,000万円) <p>県・市町へのふるさと納税寄付金 6億円 うちプロジェクト応援型 3,500万円</p>	<p>[成果等] 目標を上回って達成しました。</p> <p>「福井県U・Iターン奨学金返還支援事業」を対象事業として県の地域再生計画を策定し、国から認定を受け、9社から計1,050万円の寄付を受け入れました。</p> <p>昨年度からの4事業（母校応援、福井国体応援、山里口御門整備事業、若者チャレンジ）に加え、新たに4事業（県民衛星プロジェクト、足羽川利活用・漕舟の運航、「ふくいの希望と幸福」実践プロジェクト、高校生の海外留学支援）を対象事業とし、幅広く寄付を募集しました。</p> <p>県・市町へのふるさと納税寄付金 11億6,000万円 うちプロジェクト応援型 5,000万円</p>

(様式1)

項目	実施結果
<p>◇市町と共働の「新ふるさと」づくり ○県民共働のボランティア活動の促進 ・「社会貢献活動支援ネット」において、ボランティアの活動希望者と募集情報のマッチングを進めることにより、国体の広報や運営、災害救援、環境保全など各分野のボランティア活動者を増やします。 (平成27年度 15,102人)</p> <p>ボランティア活動者数 16,000人</p> <p>・県外学生や親子を対象とした体験交流事業など、交流人口の増加につながる地域の小規模団体の活動を支援し、県民の社会貢献活動を促進します。 (平成27年度 -)</p> <p>支援団体数 5団体</p>	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>「社会貢献活動支援ネット」のボランティア募集情報掲載数およびボランティア登録者数を増やし、マッチングを強化した結果、活動者が増加しました。 また、災害ボランティアについては、熊本地震の際、10日間で186名の方が熊本市災害ボランティアセンター運営支援に従事しました。さらに、平常時の活動として、新たに県内3ブロックにおいて、災害ボランティア研修を行うとともに、県総合防災訓練では、県本部および現地センターの設置運営訓練を行いました。(研修等参加者 計4回、145人)</p> <p>ボランティア活動者数 16,914人</p> <p>地域交流拠点の古民家を活用した交流イベントや県外大学生と地域住民とのワークショップなど、地域の小規模団体がそれぞれの特性を生かして実施する活動を支援し、5団体で、延べ7回、約300人の県外学生や地域住民などが参加しました。</p> <p>支援団体数 5団体</p>

【実施結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
 or 目標を達成しました。(さらに強化します)(例:数値目標を達成したが、課題が残るもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要のあるもの)